

ILLUMINATE THE NEGLECTED

NTDs Youth

Annual Report
2025.4 - 2026.3



NTDs Youth
Organization

NTDs Youthの会 代表理事

轟木 亮太



平素より、一般社団法人NTDs Youthの会の活動に格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本報告書では、2025年度における当会の取り組みと成果をご報告申し上げます。

2025年度は、当会にとって「国際的な発信の拡大」と「組織基盤の強化」が重なり、次の成長段階へと進む重要な転機的一年となりました。

その象徴的な取り組みが、2025年8月に横浜で開催された「第9回アフリカ開発会議（TICAD9）」への参画です。パシフィコ横浜において、WHOアフリカ地域事務局との共催により公式テーマ別イベントを実施し、当会にとって国際的な発信力を大きく高める契機となりました。

この成果を一過性のものにとどめることなく、継続的な連携へとつなげるため、「Global NTDs Youth Platform」の開発を開始いたしました。2026年2月時点で9カ国9団体が参画しており、各国のユースが活動や知見を共有し、相互に学び合う基盤が着実に整いつつあります。なお、本プラットフォームの開発にあたっては、クラウドファンディングを通じて22名の皆様から約18万円のご支援を賜りました。ここに改めて深く感謝申し上げます。

国内においても、活動の裾野は着実に広がっています。「顧みられない熱帯病コンテスト」は第3回を迎え、中学生から大学院生まで37チーム75名が参加しました。加えて、中学校・高等学校への出張授業を計11回実施し、若い世代がNTDsを自らの課題として捉え

る機会を創出することができました。これらの取り組みは、将来の担い手育成に向けた重要な基盤となるものです。

また、リサーチ事業においては、東京大学大学院が主導するSATREPSプロジェクトに継続して参画し、トルコにおけるNTDsおよび節足動物媒介性感染症対策に関する初期調査の設計・実施に携わることで、学術的根拠に基づく活動体制の強化を図りました。

これらの事業を支えるため、組織運営の面でも体制整備を進めてまいりました。広報においては、インターン制度の導入や業務マニュアルの整備により、特定の個人に依存しない継続的な発信体制を構築しました。その結果、SNSでの発信力は着実に向上し、Instagramでは累計6万ビューを超えるなど、活動の認知拡大につながっています。

人材面においても大きな進展があり、正会員数は前年度の3名から29名へと増加し、運営体制も大きく強化されました。多様な専門性と志を持つ人材が集い、それぞれの強みを生かしながら活動できる組織へと成長しつつあります。

本年度の歩みは、支援者の皆様のご支援と、共に活動する仲間の尽力なくしては成し得ないものでした。改めて深く御礼申し上げます。

NTDsの制圧に向けた取り組みは、依然として多くの課題を抱えていますが、同時に、国際協調と次世代の参画によって大きく前進し得る分野でもあります。私たちは2026年度も、この一年で培った基盤をもとに、国内外の連携を一層強化し、持続可能な形での取り組みを推進してまいります。

今後とも、変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2026年4月

一般社団法人NTDs Youthの会
代表理事 轟木 亮太

Voice for
Change



Voice for Change

2025年度活動報告

アドボカシー事業部

コンテスト事業部

リサーチ事業部

Back Office

TICAD9テーマ別イベント

会議参加報告

開催イベント報告

日本のリーダーシップを確立し次世代へ繋ぐ「共創」の一年

2025年度
活動報告

アドボカシー事業部

事業部長 轟木亮太

2025年度、アドボカシー事業部は「持続可能なアドボカシー実施体制の構築」および「NTDsに対する日本の取り組みのプレゼンス向上」という二本柱を軸に活動を展開した。特に本年度は、国際会議での発信から国内の政策提言、そして次世代を担うユース支援まで、多層的なアプローチを通じて日本の役割を再定義した一年となった。

(1) 国際舞台でのプレゼンス発揮と政策提言の深化

2025年8月に横浜で開催された第9回アフリカ開発会議（TICAD9）は、当事業部にとって最大の発信機会となった。パシフィコ横浜にてWHOアフリカ地域事務局と共催した公式テーマ別イベントでは、厚生労働省やGaviワクチン・アライアンスといった主要機関に加え、アフリカのユースリーダーであるYona Yangaza氏（One Health Society）やNowel Awa氏（GANE Kenya）を招聘した。会場とオンラインを合わせ、世界34カ国から168名が参加したこのイベントは、NTDs対策における日本のリーダーシップとユース参画の重要性を国際社会に強く印象付ける成果を取めた。

こうした国際的な発信と並行し、国内の政策形成プロセスへの関与も大きく前進した。議員会館での勉強会や意見交換会を通じて、多くの国会議員に対しNTDs対策の優先順位向上を直接働きかけたほか、自民党青年局との対話やTICAD PT（プロジェクトチーム）への政策提言の機会に恵まれた。現場の声と国際的な潮流を政策決定者に届けることで、一過性のイベントに留まらない、構造的な支援継続に向けた土台を築き上げた。

(2) 次世代への投資と持続可能な実施体制の構築

組織基盤の面では、持続可能な活動体制を目指し、次世代を担う人材の育成に注力した。本年度は新たに5名のインターンを採用し、海外渉外やクラウドファンディング、さらにはユースプラットフォームの運営といった中核プロジェクトへ配属した。

TICAD9対応の際には、他事業部との柔軟な連携により最大6名体制のタスクフォースを構築するなど、組織全体のシナジーを最大化する運営を実現した。

また、TICAD9の成果を具体的な行動へと繋げるフォローアップ事業として、「Global NTDs Youth Platform」の開発に着手した。本プラットフォームは、世界各地のユースによる活動を可視化し、相互に学び合うことで、NTDs対策の新たな原動力となることを目標としている。2026年2月時点で既に9カ国9団体が加盟しており、今後のさらなる発展が期待される。開発に際して実施したクラウドファンディングでは、22名の寄付者様から約18万円の温かいご支援をいただいた。この寄付金に込められた皆様の想いを胸に、次世代と共に歩むNTDs対策のフロントランナーとして、2026年度も精一杯の成果を出していく決意である。

(3) 今年度総評と2026年度の活動予定

2025年度総評：連携の「具現化」と確かな進歩

2025年度は、日頃から積み重ねてきた国内外のユースとの連携が、TICAD9への登壇やプラットフォーム開発という形で実を結び、活動を大きく「具現化」できた一年であった。アドボカシー面においても政策決定プロセスへの関与が深まるなど、着実な進歩を実感している。また、インターンを含む新体制の構築により、組織としての持続可能性も大きく向上した。

2026年度活動予定：基盤を活かした「継続」と「発展」

2026年度は、昨年度に築いた強固な基盤を最大限に活用し、さらなる成果の創出に挑む。具体的には、政策決定者とのネットワークをさらに深化させ、NTDs対策が日本の国際協力における重点項目であり続けるよう、粘り強いアドボカシー活動を継続していく。あわせて「Global NTDs Youth Platform」を発展させ、世界中のユースが互いに学び合い、対策を推進する強力なハブへと成長させていく所存である。2025年度にいただいた温かいご支援を糧に、次世代と共にNTDsのない世界の実現に向けて邁進していく。



NTDs Youthの会

「接点を広げ、行動を生む」 拡張フェーズへ

顧みられない熱帯病コンテストは、世界保健機関（WHO）が定める世界NTDの日（1月30日）に連動する企画として実施され、今年度で第三回を迎えた。中学生から大学院生までを対象に、「A部門：わかりやすく伝える部門～NTDsって知っている？～」と「B部門：NTDsのために行動する人を増やす部門～NTDsを制圧するために～」の2部門を設置し、若い世代による主体的な発信と行動提案を促した。

最終的に37チーム75名の参加を得ることができた。中学校・高等学校への出張授業の実現、広報手段の拡充、幅広いパートナーからの協賛協力を得ることができた。

中学校・高等学校に対しては、合計11回の出張授業を実施した。中高生への直接的なアプローチはこれまで難易度が高いとされてきたが、継続的な関係構築と提案の工夫により実現可能性を見出した点は大きな成果である。次年度以降の参加者拡大に向けた重要な導線となった。

広報面では、400校以上へのポスター・チラシ配布を実施。教育機関へのアプローチ方法については独自ロジックを再設計し、効率的な展開を実現した。また、特設Instagramを新規開設し、20件以上の投稿を行い、合計60,000viewを獲得した。特設Websiteとあわせてオンライン上の情報基盤を整備できたことは、単年度にとどまらない資産となっている。また公式LINE登録者数も250名以上の増加を実現し、広報・集客導線の強化が成果に結びついた。

当日の運営面においても大きなトラブルや緊急対応は発生せず、実行委員会からも高い評価を得た。企画設計、広報、協賛獲得、教育機関連携など、昨年度よりさらに事業を拡大させつつ、多面的な活動を計画通り遂行できたことは大きな進歩である。一方で、事業の完成度向上に伴い、必要工数や求められるスキル水準が年々高まっていることも明らかになった。今後は、事業の規模拡大と持続可能な運営体制をどのように両立させるかが重要な検討課題である。

■ 組織体制

主催：世界NTDの日2026・日本実行委員会
事務局：一般社団法人NTDs Youthの会
構成団体：公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）、日本製薬工業協会、長崎大学熱帯医学研究所/日本顧みられない熱帯病アライアンス（JAGntd）、特定非営利活動法人SDGs・プロミス・ジャパン（SPJ）
協賛：公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）、日本製薬工業協会、長崎大学熱帯医学研究所/日本顧みられない熱帯病アライアンス（JAGntd）、特定非営利活動法人SDGs・プロミス・ジャパン（SPJ）、顧みられない病気の医薬開発イニシアティブ（DNDi Japan）、公益財団法人大山健康財団、SORA Technology株式会社
後援：外務省、厚生労働省

■ 受賞作品一覧

- <A部門 最優秀賞>
NTDsスコープ！！+α（N-Lights）
- <A部門 U-18特別賞>
人類は熱帯病に勝てるのか？（チームなのかな）
- <B部門 最優秀賞>
トイレ募金で届けよう！～感染しない・させない環境づくり～（鳥取大学熱帯医学研究会）
- <B部門 U-18特別賞>
蚊の脅威（NAHOKARI）
- <GHITパートナーシップ&イノベーション賞>
顧みられない熱帯病～カードゲームを使って学んでみよう～（ぽてとふらい）
- <日本製薬工業協会賞>
『「無知」で止まるな。「知る」へ進め。』-最初のドミノになることを願って-（BIGMA(ビグマ)）

事業部長 近藤裕哉

2025年度
活動報告

コンテスト事業部



基盤構築から本格展開へーサーベイ設計と運用の確立

2025年度
活動報告

リサーチ事業部

リサーチ事業部は、東京大学大学院農学生命科学研究科 応用動物科学専攻の三條場千寿准教授が主導するSATREPSプロジェクト「トルコにおける顧みられない熱帯病、特に節足動物媒介感染症制御に向けたワンヘルスの展開」に昨年度より継続参画している。本年度は特にprimary surveyの設計・実施に注力し、質問項目の策定から第一弾調査の実行、データ解析までを行った。これにより、今後の本格的な調査に向けた基本的手法と運用フローを確立することができた点は大きな成果である。またSATREPS中間発表の場で成果報告を行う機会を得たことにより、事業部としての対外的な信頼構築につながった。活動過程では、三條場研究室を計4回訪問し、対面での議論と進捗確認を重視した。継続的なコミュニケーションにより、研究設計の精緻化だけでなく、トルコ・日本双方の研究者との関係性構築にもつながった。現地調査の実際を直接確認できたことは、机上の検討にとどまらない理解を深める貴重な機会となった。

一方で、当初の目的設定がやや楽観的であった点は反省材料である。実際にsurveyを実施して初めて質問設計や手法上の課題が明確になり、事前段階での見積もりの難しさが浮き彫りとなった。今年度は「土台づくり」の段階に位置づけられ、来年度は本格的な調査実施と成果発表まで到達することが目標となる。

また、本研究がリーシュマニア症に特化した公衆衛生研究であるという強みを活かし、2026年度の新歓活動の一環として、インターン生を迎え、関連イベントの企画も進行中である。研究活動と人材獲得を結びつける取り組みとして、組織全体の発展にも寄与することが期待される。



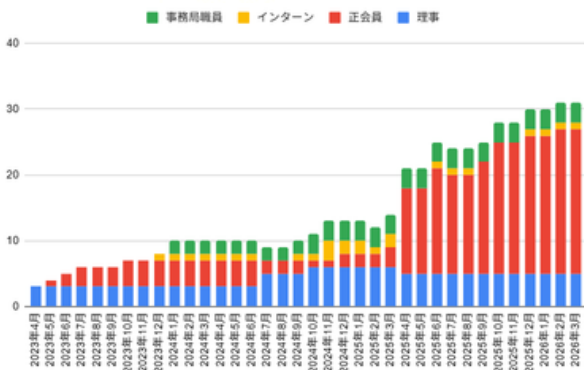
事業部長 高泉優



人事部 (事業部長 近藤裕哉)

本年度の人事部は、「機会創出・人材獲得・育成強化」を軸に活動を展開した。正会員数は2025年3月時点の3名から2026年2月には29名へと大幅に増加した。インターン関連では案件数13件を創出し、そのうち9件が実際の参画決定に至った。多様な入口を設けることで関心層を具体的な活動参加へとつなげる導線を整備した。各事業部と連携しながら実践的な機会を用意できたことが、成果に直結したといえる。

運営委員についても、2名から8名へと増員した。組織運営を担う人材の層が厚くなったことは、意思決定や事業実行の安定性向上につながっている。また、eNPS（従業員推奨度）スコアは80.1点から80.6点へと向上し、組織満足度の改善も確認された。受け皿となる枠組みを整備し、育成に協力した各事業部長、そして活動に主体的に関わった運営委員の存在が大きな支えとなった。



一方で、正会員・運営委員に対するインセンティブ設計については課題が顕在化した。人数拡大に成功したからこそ、今後はエンゲージメント向上や継続的関与を促す仕組みづくりが不可欠である。来期は引き続き正会員の新規獲得に取り組むとともに、正会員体験の向上を通じて会員基盤の強化を図る。

◀ 団体設立時からの会員数の推移

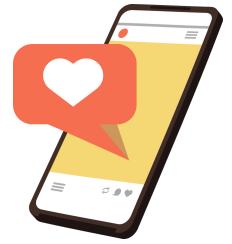
2025年度
活動報告

バックオフィス



広報事業部 (事業部長 上杉優佳)

本年度の広報部は、「団体活動の安定的発信体制の構築」と「NTDsの認知度向上」の二軸を掲げて活動を展開した。従来は事業部長クラスによる単独体制に依存する側面が大きかったが、インターンの導入や業務マニュアルの整備を進めることで分業体制を確立し、継続的な発信基盤を構築できたことが最大の成果である。



具体的には、Podcast事業およびInstagramでのNTDs関連投稿それぞれにインターンを配置し、団体の活動紹介に加え、NTDsに関する最新ニュースの発信や解説を行った。その結果、Peatix登録者は156名、Xフォロワーは+30名、Instagramフォロワーは+94名、Podcast (YouTube) 登録者は+45名と着実に増加した。

また、当会の活動をまとめた書籍化プロジェクトも進行中であり、広報活動を一過性のSNS発信にとどめず、形として残す取り組みへと発展させている。これは団体の信頼性向上や中長期的なブランド形成にも寄与するものと期待される。

一方で、今年度の目標に関して未達項目も複数あり、発信機会をより能動的に創出する余地があることが明らかとなった。特に、NTDs関連情報をタイムリーに発信する仕組みづくりや、正会員のエンゲージメントを高める内部向け広報の強化は今後の課題である。



ガバナンス事業部 (事業部長 高泉優)

会全体の円滑な運営のため、2025年6月には社員総会を実施し、3カ月に1回理事会の定期開催を行った。また、個人情報の取り扱いを適切に行うため、個人情報保護指針を策定した。



経理財務部 (事業部長 轟木亮太)

顧問税理士「税理士法人近未来」のもと、適当に健全な会計処理を行なった。



活動報告書作成部 (事業部長 上杉優佳)

毎月の運営委員会および理事会の内容をもとに、各事業部の2025年度の活動報告、および2026年度の活動予定に関して公開文書を作成した。

* 昨年度設立のスタディツアー事業部は人員不足等のため、2025年夏をもって活動を停止いたしました。

2025.4.10

<アドボカシー事業部>
自民党青年局役員との
意見交換会

2025.8.20

<アドボカシー事業部>
TICAD9
公式テーマ別イベント

2026.1.30

<コンテスト事業部>
第三回顧みられない熱帯
病コンテスト最終審査会

2025.4.15

<アドボカシー事業部>
NTDプロジェクト
マネージャー会議

2025.9.30

NGO Network for NTDs
Conference 2025 (NNN2025)

2025.9.30

European Congress on Tropical Medicine
and International Health (ECTMIH 2025)

TICAD9

特集

責任者 近藤裕哉



横浜と34カ国168名を結び、 UHC推進とGlobal Healthの 未来を議論

2025年8月20日、パシフィコ横浜にて第9回アフリカ開発会議（TICAD9）の公式テーマ別イベント「グローバルヘルスの未来：次世代の力で変える健康課題」を開催した。本イベントは、2030年のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）達成に向け、若者と専門家が共に議論する場として企画され、会場とオンラインを結び34カ国168名が参加した。WHOアフリカ地域事務局、Gaviワクチンアライアンス、厚生労働省の専門家に加え、日本、タンザニア、ケニアの若者代表が登壇し、グローバルヘルスと顧みられない熱帯病（NTDs）対策の未来について意見交換を行った。

開会挨拶では、井筒将斗国際保健管理官（厚生労働省）が、グローバルヘルスが大きな転換期を迎える中で次世代の参画が不可欠であると強調した。また、日本政府が掲げる「誰一人取り残さない」という理念の下、

UHC達成に向けた取り組みを推進していることを紹介した。WHOアフリカ地域事務局を通じたNTDs対策支援やGHIT Fundを通じた研究開発支援など、日本の国際貢献の具体例も提示した。さらに、WHOと世界銀行と連携して開始した「UHCナレッジハブ」にも触れ、本イベントが若者と国際機関をつなぐ契機となることへの期待を述べた。

第1部のショートトークでは、WHOアフリカ地域事務局（ESPEN）のミカ・S・ンダイジガ氏が「NTDsは過去の病気ではなく、現在も多くの人々に影響を与えている」と指摘し、若者は未来の担い手ではなく“今”の主体であると訴えた。ケニアのノエル・アワ氏は、若者がNTDs対策における推進力であり、国家計画や予算への組み込みが持続可能性の鍵であると強調。タンザニアのヨナ・ヤンガザ氏は、人口の60%を若者が占めるアフリカにおいて、若者の参画なしにNTDs制圧は不可能であると述べた。NTDs Youthの会から登壇した梅木真実氏は、日本が感染症を克服してきた歴史を踏まえ、若者が主体的に行動し2030年に成果を示す決意を表明した。

第2部のパネルディスカッションでは、Gaviワクチンアライアンスのマリアンジュ・サラカ＝ヤオ氏が加わり、「国の主体性」と「若者の関与」を軸に議論が展開された。各国の政策と草の根の取り組みをいかに結び付けるか、若者の声を政策形成にどう反映させるかについて、具体的な提案が示された。

本決議を契機に、世界のNTDs関連ユース団体をつなぐ「Global NTDs Youth Platform」を当会中心に構築・実装した。本プラットフォームは各国のNTDs関連Youth団体の活動発信や連携強化を目的としており、クラウドファンディングでは日本を中心に15万円以上の支援を獲得した。今後は参加団体の増加や機能拡充を通じ、若者主導の国際連携を一層推進していく方針である。



▲ 会場に集まった登壇者

左から井筒将斗氏（厚生労働省国際保健管理官） / ミカ・S・ンダイジガ氏（WHOアフリカ地域事務局） / ヨナ・ヤンガザ氏（One Health Society） / 梅木 真実氏（NTDs Youthの会）

新設！NTDs Youth Platform

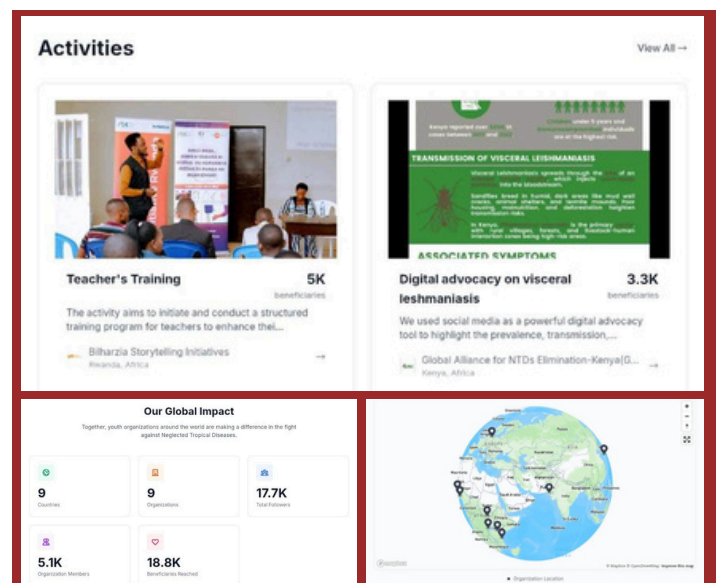
NTDs制圧については世界各地に同じ志を持つ団体が数多く存在する一方、それらが十分に連携できていないという構造的な課題が存在していた。具体的には、互いの活動を知る機会が乏しく連携が生まれにくい「連携の断絶」、本来協力可能な団体同士が存在を認識できていない「認知の不足」、そして低・中所得国の小規模団体ほど資金調達や情報発信の機会が限られる「格差の固定化」といった問題である。これらは個々の努力では解決が難しく、NTDs対策の進展を妨げる要因となっている。

NTDs Youth Platform ホームページ画面の一部。世界のNTDs関連ユース団体が各国での活動を広報し、相互的な情報共有を行える場となっている。▶

こうした背景を踏まえ、世界中のユース団体をつなぐ場として構想されたのが「Global NTDs Youth Platform」である。本プラットフォームは、国や地域を越えて活動するユース同士が継続的に交流し、知見や経験を共有しながら新たな行動を生み出すことを目的とする。TICAD9における議論を具体的な形に落とし込む試みでもあり、「国境を越えた連携」や「現場の声の可視化」といった課題に応える仕組みとして設立された。また、日本が推進してきたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の理念とも接続し、政策・制度レベルの知見と現場の実践知を双方向につなぐ役割を担う。従来の「支援する・される」という関係を超え、各国のユースが主体的に課題解決に取り組むパートナーシップの構築を目指している点も特徴である。

本プラットフォームの開発にあたってはクラウドファンディングを実施し、22名の寄付者から約18万円の支援を受けた。これは取り組みに対する共感と期待の表れであり、ユース主体の挑戦を社会全体で支える基盤の一步となった。

2026年2月時点では、すでに9カ国9団体が加盟しており、国際的なネットワークとしての基盤が形成されつつある。多様な地域のユースが参画することで、各国の課題や実践が共有され、相互に学び合う環境が徐々に整ってきている。今後は本プラットフォームをさらに発展させ、単なる情報共有の場にとどまらず、共同プロジェクトの創出や政策提言、国際的なアドボカシー活動へとつながるハブへと成長させていくことを目指す。世界中のユースが継続的に連携し、学び合い、行動を起こすことで、NTDs対策をより実効性のあるものへと発展させていく。その基盤として、本プラットフォームは今後の国際保健分野における重要な役割を担うことが期待される。



会議参加報告

2025.4.10

自民党青年局役員との意見交換会

政策共創プラットフォームPoliPoliと自由民主党青年局が共催した政策意見交換会に当会代表の轟木が参加し、NTDs対策の推進に関する政策提言を行った。

当日は若者支援、障がい者就労、デジタル教育など多様なテーマで5名の有識者が登壇。弊会からは代表理事の轟木亮太が登壇し、「NTDsへの理解を深め、グローバル人材を育成することが、次世代の感染症対策の基盤となる」と訴えた。自民党青年局の中曽根局長からは「社会の落とし穴に光を当てる政策を党内で共有する」との前向きなコメントもいただいた。



2025.4.15

NTDプロジェクトマネージャー会議

トーゴ・ロメにて開催された「NTDプログラムマネージャー会議」に、当会代表の轟木が参加した。本会議はWHOアフリカ地域事務局が主催し、「Innovating for Acceleration: Pathways to NTD Elimination (加速のための革新)」をテーマに、約170名の関係者が一堂に会した。

USAIDの資金援助停止など、急激な資金環境の変化に直面する中、NTD撲滅の加速には持続可能な資金モデルや地域横断的な連携が不可欠であることが強調された。MDA（大規模薬剤投与）の遅延・医薬品の期限切れリスクを回避すべく、各国で緩和策が求められていた。日本を含む限られたドナー国の貢献が、今まさに問われている状況であった。

2025.9.30

NGO Network for NTDs Conference 2025

今年で16回目を迎えた NTDs NGO Network 2025 (NNN2025) が、ウガンダ・カンパラで開催された。テーマは“Sustainable Innovations for Impact – Transforming the Fight Against NTDs”であり、AIやデジタルデータの活用、資源の統合 (Integration) など、時代に即した取り組みが注目を集めた。



NTDs Youth の会からは近藤が3年連続で参加し、各国のユースとともに今後の方針や協力体制について意見交換を行った。特に今年は、Youthが主催するワークショップが2つ開催され、その運営のサポートを行った。

2025.9.30

European Congress on Tropical Medicine and International Health (ECTMIH 2025)

ドイツ・ハンブルクで開催された第14回European Congress on Tropical Medicine and International Health (ECTMIH 2025) に、Youth Initiativeの一員としてアドボカシー事業部から梅木真実が参加した。本会議は「Better Health for All in a Changing World」をテーマに、約1,500名の研究者、政策担当者、国際機関、NGO、学生らが集い、熱帯病や感染症、気候変動、人道危機など幅広い課題が議論された。



Youth Initiativeとしては、国際的若手ネットワークとの連携強化と、ユースがグローバルヘルス分野で果たし得る役割の具体化を目的に活動した。特に、Organised Session「Empowering the Next Generation: The Impact of Youth in Tackling Neglected Tropical Diseases」に登壇し、NTDs Youthの会の取り組みを紹介。パネルディスカッションでは、ユースネットワークの発展、研究と実践の接続、地域社会との連携、既存組織との協働や資金確保といった論点について議論を行った。

2025.11.29

第66回日本熱帯医学会



本年度の日本熱帯医学会では、各大学の熱医研サークルやJ-Tropsなど、熱帯医学を志す学生団体との交流を中心に活動した。若手世代とのネットワーク構築を通じ、日本における熱帯医学コミュニティの横断的連携を強化する機会となった。

また、国境なき医師団 (MSF) 主催のシンポジウム「資源の限られた国における『顧みられない熱帯病』治療の課題について」に近藤が登壇した。現在の国際保健が直面する構造的課題、その状況におけるユースの役割に焦点を当て、NTDs Youthの会のこれまでの取り組みを紹介した。

イベント開催報告

グローバルヘルス勉強会（正会員限定）

正会員に対してグローバルヘルスの基礎知識を体系的に提供し、学会や国際会議等への参加ハードルを下げることで、また、そうした場での学びを最大化することを目的に勉強会を開催した。本勉強会は参加者同士のディスカッションの時間に重きを置いており、参加者の主体的な学習を促すとともに、正会員のエンゲージメント向上にも貢献することを目指した。



発展編（参加者22名）および応用編（参加者15名）の2段階構成で実施し、満足度は発展編4.55、応用編4.93といずれも高評価を得た。NPSも発展編54.6、応用編79.9と非常に高い水準を記録し、参加者の推奨意向の強さが示された。今後の人材育成およびイベント参加促進の土台となる取り組みとなった。

NTDs Youth Annual Report 2025.4 - 2026.3

Illuminate the Neglected.

一般社団法人（非営利型） NTDs Youthの会


NTDs Youthの会は、顧みられない熱帯病(NTDs)の制圧を目標に、認知度拡大活動や政策提言活動を行う一般社団法人です。

所在地


〒812-0011

福岡県福岡市博多区博多駅前3丁目6-1小森ビル4A

 <https://www.ntds-youth-japan.org/>

 [office\(@\)ntds-youth-japan.org](mailto:office(@)ntds-youth-japan.org)

各種ソーシャルメディア

 @ntds_youth

 @NTDs_Youth

